

令和8年度工学部土木建築学科
土木工学教育プログラム・地域デザイン教育プログラム
3年次編入学(一般入試)

専門分野・数学 解答例

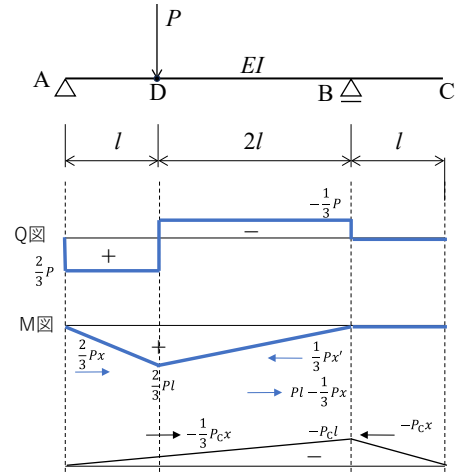
その1 専門分野

1

反力を求めると,

$$V_A = \frac{2}{3}P, \quad V_B = \frac{1}{3}P$$

(1) せん断力図 (Q 図), 曲げモーメント図 (M 図) は右図 (青色) の通り.



(2) 点 D に P を作用させたときの点 C のたわみを u_C とすると,

$$EIu_C = \int M\bar{M}dx = \int_0^l \left(\frac{2}{3}Px\right)\left(-\frac{1}{3}x\right)dx + \int_l^{3l} \left(Pl - \frac{1}{3}Px\right)\left(-\frac{1}{3}x\right)dx + \int_0^l 0 \cdot (-x')dx' \quad \text{より}$$

$$\therefore u_C = -\frac{4Pl^3}{9EI} \quad (\text{上向き})$$

(3) 点 C の鉛直方向に荷重 P_C を作用させる. このときの点 D のたわみを u_{DC} とすると,

$$EIu_{DC} = \int M\bar{M}dx = 0 + \int_l^{3l} \left(-\frac{1}{3}P_Cx\right)\left(l - \frac{1}{3}x\right)dx + \int_0^l \left(-\frac{1}{3}P_Cx\right)\left(\frac{2}{3}x\right)dx \quad \text{より}$$

$$\therefore u_{DC} = -\frac{4P_Cl^3}{9EI} \quad (\text{上向き})$$

点 D に P を作用させたときの点 D のたわみを u_{DP} とすると,

$$EIu_{DP} = \int M\bar{M}dx = \int_0^l \left(\frac{2}{3}Px\right)\left(\frac{2}{3}x\right)dx + \int_0^{2l} \left(\frac{1}{3}Px'\right)\left(\frac{1}{3}x'\right)dx' \quad \text{より}$$

$$\therefore u_{DP} = \frac{4Pl^3}{9EI} \quad (\text{下向き})$$

点 D のたわみが 0 であるため,

$$u_{DC} + u_{DP} = -\frac{4P_Cl^3}{9EI} + \frac{4Pl^3}{9EI} = 0$$

$$\therefore P_C = P$$

その1 専門分野

2

(1)

| | | | |
|---|-----------------------|---|------|
| ① | 限界流 (れ) | ⑥ | 限界勾配 |
| ② | 常流 | ⑦ | 緩勾配 |
| ③ | 射流 | ⑧ | < |
| ④ | $\frac{U}{\sqrt{gh}}$ | ⑨ | 急勾配 |
| ⑤ | 限界水深 | ⑩ | > |

(2)

| | |
|---|--|
| ① | $s = B + 2h$ |
| ② | $R = \frac{Bh}{B + 2h}$ |
| ③ | $U = \frac{1}{n} \left(\frac{Bh}{B + 2h} \right)^{2/3} I^{1/2}$ |

その1 専門分野

3

(1) 円柱形状の供試体の直径は 0.06 m であるので、供試体の断面積は以下のようになる。

$$0.03 \times 0.03 \times 3.14 = 0.00283 \text{ m}^2$$

したがって、供試体に作用する垂直応力は以下の式で計算される。

$$300 \div 0.00283 = 106 \text{ kN/m}^2$$

(2) 水平荷重の最大値は 210 N であるので、せん断強さは水平荷重を断面積で除することによって以下のように計算される。

$$210 \div 0.00283 = 74.3 \text{ kN/m}^2$$

乾燥した砂質土であるため粘着力を 0 N とすると、静摩擦係数はせん断強さを垂直応力で除することによって以下のように計算される。

$$74.3 \div 106 = 0.701$$

その2 数学

(1) 掃き出し法より,

$$\left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 2 & 3 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 4 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array}\right)$$

2行目 $-$ 3行目 $\times 4$ を行うと

$$\left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 2 & 3 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & -4 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array}\right)$$

1行目 $-$ 3行目 $\times 3$ を行うと

$$\left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 2 & 0 & 1 & 0 & -3 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & -4 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array}\right)$$

1行目 $-$ 2行目 $\times 2$ を行うと

$$\left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & 1 & -2 & 5 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & -4 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array}\right)$$

よって, 逆行列 A^{-1} は

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 5 \\ 0 & 1 & -4 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

となる.

(2)

$A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の両辺に左から逆行列 A^{-1} を掛けると, $\mathbf{x} = A^{-1}\mathbf{b}$ であるから

$$\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 5 \\ 0 & 1 & -4 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_1 \\ 6 \\ 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 + 13 \\ -14 \\ 5 \end{pmatrix}$$

$x + y + z = 10$ を満たすことから, $(b_1 + 13) + (-14) + 5 = 10$ より,

$$b_1 = 6$$

となる.